

露地モモの^{ヒラダナ}平棚仕立てによる軽労働省力化

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部

担当者：岡田 眞治

研究のねらい

従来から行われてきた立木仕立てによる栽培法では、脚立が必要なため作業中落下の危険性が高く、生産者が高齢化するにつれて深刻な問題となっている。また、摘蕾、摘果、袋掛け、収穫など、短期間に集中する作業を行うための労働力確保が難しく、モモの経営拡大を阻む大きな原因にもなっている。そこで、軽労働化が期待できる平棚仕立て栽培での作業の有利性について調査した。

研究の成果

- 1 樹当たりの冬季せん定時間は、平棚区では枝の誘引作業があるため、立木区と比べておよそ4割長くかかるが、この期間は3~4カ月間あるので、労力分散は可能であり、管理作業上特に問題はないものと思われる。
- 2 1樹当たりの摘蕾、予備摘果及び仕上げ摘果時間は、平棚区が立木区に比べて、それぞれ3割、1割程度ずつ短くなる。なお、これらの作業は適期に短期間で行うほど果実肥大に有利である。
- 3 1果当たりの袋掛け時間は、平棚区が立木区と比べておよそ1割短くなる。また、地上での作業時間を比較した場合は両区間にはほとんど差が見られないが、脚立上での作業は地上での作業時間よりおよそ2割長くかかる。
- 4 1果当たりの収穫時間は、平棚区が立木区と比べておよそ2割短くなる。また、地上での作業時間を比較した場合は平棚区が1割短く、立木区では脚立上での作業時間が地上に比べて3割長くかかる。
- 5 立木区の脚立上での作業割合は摘蕾が6割、摘果及び袋掛けが4割、収穫が2~3割であり、この分が重労働で危険性を伴う作業として考えられるが、平棚仕立ては脚立上の作業がなくなり、軽労働・省力化が図られる。

普及上の留意点

- 1 この仕立て方は、特に樹高が制限される長沢白鳳や川中島白桃などの中晩生種のネット被覆栽培に適している。
- 2 整枝法はH字形か改良H字形を基本とし、樹勢の強い樹では果実着色開始期と9月上旬に徒長枝抜きを主体とした夏季せん定が必要である。

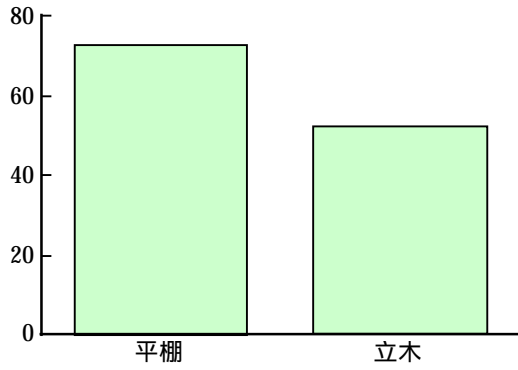


図1 1樹当たりの冬季せん定時間

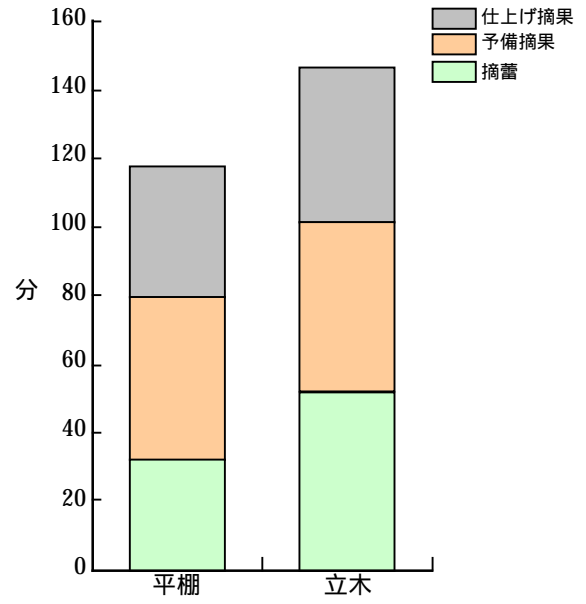


図2 1樹当たりの摘蕾、摘果時間

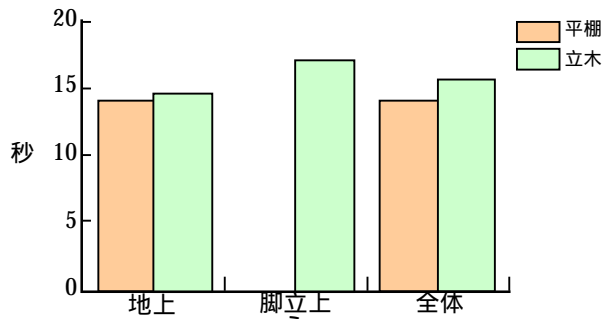


図3 1果当たりの袋掛け時間

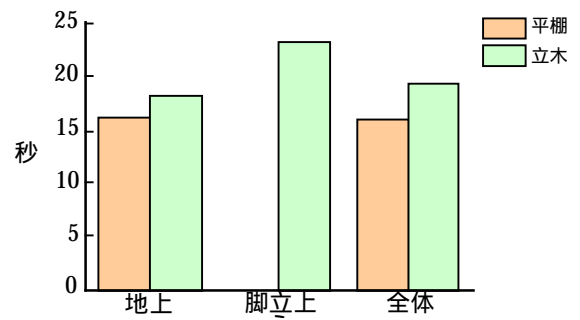


図4 1果当たりの収穫時間

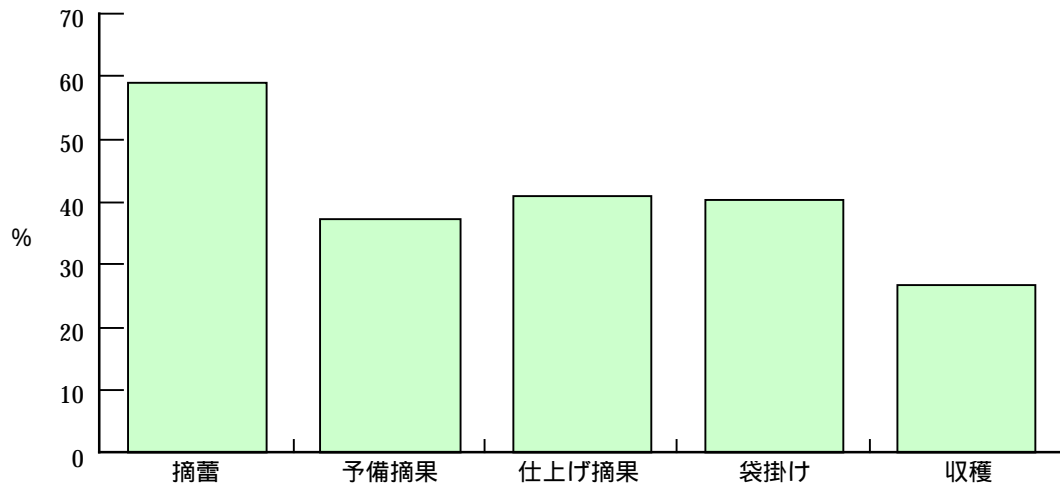


図5 立木仕立ての脚立上での作業割合